

令和4年 4月28日



# のびるほとっ子!

## もっと ほっと ずっと

横浜市立保土ヶ谷小学校

### 時を重ねて、思いを馳せて

学校長 小川 克之

新緑が目に見える5月を迎えます。保土ヶ谷小学校は、今月150回目の“誕生日”を迎えます。正式には学校の創立は5月5日ですが、こどもの日と重なってしまい創立した日を覚えている人は少ないかもしれません。

私の手元に、今まで発行された「保土ヶ谷小学校創立〇〇周年記念誌」が3冊ほどあります。一番古い記念誌は「創立88周年記念誌」で昭和35年に発行されたものです。他の年に発行された記念誌と併せて読んでみますと、本校の歴史がいろいろと浮かび上がってきます。

梅鉢の校章は、学問の神といわれる菅原道真公からあやかり第2代の岡野欣之助校長（明治22年4月～明治26年12月）が元をつくったと言われています。校章の中心にある字も最初は「程谷」と書かれていたそうですが、明治38年に「程」そして昭和2年に「保」と改められました。「うめばちの このきしょう むかしから今に伝えて」と歌われる校歌は、昭和35年（創立88周年の時）に制定されました。校章はおよそ130年前に元が作られ、校歌は62年前から歌い継がれてきました。

さらに記念誌を読み進めていきますと、「二部授業」の事が書かれています。今の学校生活では考えられませんが、明治時代に子どもの数が増加し、教室の数が少なくなったために午前と午後の2回に分けて授業を行っていました。つまり同じ机を（午前と午後）2人の人が使うということがあったようです。この「二部授業」を全国で最初に実施したのが保土ヶ谷小学校だと書かれています。

神戸町にある現在の校舎は、平成12年に月見台（現在の横浜銀行保土ヶ谷支店の裏にあるイコット広場）から移転したものです。移転してから22年が経ちますが、場所も変わったために昔の面影はほとんど残っていません。唯一残存しているのは、月見台校舎時代の石で造られた門柱が、校舎の隅（キッズ入口の斜め前の植え込み）に移設されています。

「保土ヶ谷小学校」と彫られた石の校門は、何千、いや何万人もの子どもたちがくぐったことでしょう。

まさに本校の宝物です。（校名が入っていない2本の校門はイコット広場にありますが）

令和4年度は150周年をお祝いする記念すべき年です。7月9日（土）に予定されている「150周年記念行事」は、コロナ禍の影響で多くの方々をお呼びすることはできませんが、子どもたちにとって心に残る記念行事にしたいと思っております。これからもご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

